

7月に向けて

代表取締役 三田雅憲

梅雨時期に入り湿度が高くスッキリしない日々が続きますが、皆様いかがお過ごしですか？

先日、ある社員に対して工場長及び事務長にも参加してもらい、時間をかけて「人にやってもらったり、指示を受けたりしたことに対してあまりにも無神経な対応であったり、当事者意識が無すぎたり、叱ってもらった人の愛

に対して無頓着なことに対して指導をしていました。それぞれの仕事が忙しい中、時間をその社員の為に割いてもらったのです。当日もあまり納得のいない顔をして帰ったのですが、次の日、全くそのことに対して「昨日はありがとうございました。」とか「時間をとってもらいすみませんでした。」と一言も無かったので、私はとうとう感情の爆発で雷を落として他社員の前で怒りました。「もう嫌なら会社来なくてもいいよ」とまで言いました。その後、十分反省した様子で詫言を入れてきたので私も強く言った反省をしました。

しかし、先代がよく私や他の社員を叱ってくれていたことを思い出しておりました。厳しく叱ってくれたけど恨んだりすることはありませんでした。このことについてもう亡くなられましたが、元楽天の監督の野村克也氏が次のように述べられておられます。

「叱る」と「怒る」の違い分かるか？の段です。

「相手に対して怒ってはいけない。叱るべき。私はそう思っている。「怒る」というのは大抵の場合、一時的な感情の爆発だ。相手が何かを失敗したときにカッとなって怒鳴り散らしたり、ただ単に自分の機嫌が悪く、一種のストレス発散のために感情に任せて声を荒げたりする。怒った側はスッキリするかもしれないが、怒られた側は全くスッキリしない。それは、この歳（84歳）になってもそうだ。一流のプロ野球選手は常に冷静で平常心な人が多かった。乱れた心では球も乱れるし、バッドを振っても当たらない。「怒り」という感情は自滅への第一歩。だから私は冷静であることを心がけているのだ。

では、「叱る」は何が違うのか？「叱る」は相手への愛情が必ずある。愛情があるからこそ叱ることができると思っている。そもそもなぜ叱るのか？相手の成長を促すためだ。

何がいけないのか？悪かった点、失敗した点に気づかせ次に同じ失敗をしないためにはどうすれば良いのかを考えさせる。そうやって少しでも相手が成長することを願って叱るのだ。何とも思っていない相手をいちいち叱ることなどしないだろう。

もっと変わってほしい、成長してほしいという思いがあるから叱るわけだ。優しく接することだけが愛情ではないということだ。叱られた側も相手が自分の為を思って言ってくれていることが分かれば、叱られたことをバネにして成長しようと奮起するだろう。「次は失敗しないぞ」と思うところから成長は始まる。「失敗と書いて成長と読む」とは私がよく言っている言葉だが、まさに失敗から人は成長していくのだ。

また、指導者であれば事前に基準を知らせることが重要だ。やってはいけないこと、あるいは自分の考え方や目指す理想、方向性を伝えるということだ。私は監督時代、常に選手たちに私の理想を伝えてきた。試合前のミーティングはいつも入念に行い「こうやってほしい」「こういうチームを目指したい」そんなことを伝え続けてまた、それに反するような行動をした選手がいれば厳しく叱った。又叱った後にはフォローすることも忘れずに 叱りっぱなしにしないということだ。

又人として本当に成長するためには謙虚さが無ければならない。人が謙虚さを認識するのは何かで失敗したとき挫折を経験したときだろう。挫折して初めて気づくことはたくさんある。自分の至らなさ不甲斐なさ努力の足りなさ未熟さなど、思わず目を逸らしたくなるような事ばかり、でもそこで「自分はまだまだだ」と思えば謙虚になれる謙虚さがあれば周りもきっと味方してくれる今つらい状況にあると思っても謙虚さを身に付ける時期だと割り切って何とか乗り越えてもらいたい。

とその著書「老いのボヤキ」に書かれています。会社をいい意味で成長していくには社員一人一人が気持ちや方向を同じように持ち、先ほどの野村監督の言葉のように社員が成長していかねばならないと感じています。私をはじめ長くこの会社に在籍して頂いているベテラン社員はこのことを肝に命じて頑張って社員を正しく導いて頂きたいし、また若い社員の中には、一生懸命にそういう努力をしている方もおられます。お互い成長していけるように頑張っていきましょう。